

主権者としての自覚をもち、 主体的に問題解決する力の育成



大宮区 桜木中学校 教諭 神本 涼子

1 はじめに

本校は平成28年度のさいたま市主権者教育開発モデル校として、3学年の社会科の授業を中心に、主権者としての自覚をもち、主体的に問題解決する力の育成に取り組んできた。

2 研究の概要

(1) 主題設定の理由

改正公職選挙法が施行され、選挙年齢が引き下げられた。選挙で一票を投じることは、自分の考えを国や地方公共団体に反映させるという大きな意義がある。効率・公正という観点から社会全体を考える力は、18歳になったからといって急に生まれるものではない。中学生の段階で、自分も主権者であり、自分の考えは社会につながる大切なものであることに気付かせることが必要であると考えた。

(2) 授業実践

①模擬選挙

ア 事前準備

- ・政策の検討、立候補者役への指導
- ・道具…投票箱、記載台、投票用紙、櫛

イ 演説・主張検討

演説を受け、四人グループで各候補者の主張について検討した。よい点、課題について短冊に書かせ、ホワイトボードに貼り出し、全体で意見を共有した。

ウ 投票

ホワイトボードを見て再度主張を整理し、投票を行った。投票は実際の選挙で使用されている記載台と投票箱を使用した。

エ 事後の活動

開票は各学級の選挙管理委員会によって行い、結果発表は社会科の授業で行った。

②模擬裁判員裁判

ア 事前指導

前時に裁判員制度の概要を学び、どの過程に携わるかをイメージして参加させた。

イ 臨場感

視聴覚教材を使用し、教室が法廷になったような臨場感をつくった。その後は実際の裁判員裁判と同じ六人グループで話し合いをし、証拠カードを使い整理させた。折り合いをつける難しさを実感しながら、意見を深めた。

③出前授業

租税教室、大学教授による授業を実施した。事前の打合せを綿密に行い、双方向型の授業を目標とした。

3 成果と課題

生徒は、実践を通し、「自分の一票は大切な一票だと分かった」「社会全体の利益を考えて投票したい」（模擬選挙）「多くの証拠から考えることが大切」「他人の人生に係ることの重みを知った」（模擬裁判）など、自分には関係ないと思っていたことを、体験的活動を通して自ら考え、その考えや思いが実際に反映される満足感を味わっていた。同時に、大きな責任もあるということを実感できた。今後は、さらに幅広い分野で主権者としての視点を持ち、社会の構成員の一員として問題解決に取り組む力を育成したい。